まぼろしの王国、「加耶」を展示する

国立歴史民俗博物館研究部教授・
総合研究大学院大学文化科学研究科教授
高田貫太

古代の東アジアに、ほのかだけれど確かな輝きを放った、加耶という王国(群)が存在した。

加耶は、朝鮮半島の南部において、互いに協力し、時には競い合いながら活躍した国々―金官加耶、阿羅加耶、大加耶、小加耶など―の総称である。釜山を訪れる際によく使われる金海国際空港の一帯は、金官加耶の本拠地だった。加耶についての歴史記録は限られるため、長らく幻の王国と呼ばれてきた。けれども、ここ30年の遺跡の発掘調査と研究によって、秘密のベールに包まれていた加耶の実像が明らかとなりつつある。

加耶は、今から1700年ほど前、遅くとも4世紀には海上交易のノウハウと卓越した鉄の生産力を武器として、強国の新羅や百済と渡り合い、海をはさんだ古代日本、そして遠く中国と交流を重ね、飛躍的な成長を遂げた。けれども6世紀に入ると、新羅や百済から度重なる圧力や攻撃を受け、次第に弱体化する。そして562年、大加耶が新羅に投降し、歴史の表舞台から姿を消した。

私が勤める国立歴史民俗博物館(以下、歴博)では、この加耶についての企画展示、「加耶―古代東アジアを生きた、ある王国の歴史―」を、10月4日(火)から12月11日(日)まで開催する。韓国を代表する国立中央博物館(以下、中央博)の全面的な協力を受けて、成長の礎となった鉄の道具、多彩な金銀のアクセサリー、整美な土器、武威を示す武器や馬具、そして対外交渉を示す外来の品々など、220点あまりの資料を展示する。

なぜ、今、加耶を展示するのか。理由は大きく2つだ。

ひとつは、倭と呼ばれた古代日本が、最も密接に交流を重ねた社会が、加耶だからである。古代日本は、加耶との交流を通して、様々な文化を自らのものとした。鉄の生産、須恵器と呼ばれる硬い焼き物、貴金属を用いた金細工、馬の飼育などをはじめとして、生活全般にかかわる様々な情報や技術、道具を手に入れた。そのノウハウをもった加耶の人びとも多く倭に渡ってきており、その動きが盛んだった5世紀は「技術革新の世紀」とも呼ばれる。古代日本の歴史をきちんと知るためには、加耶の歴史、そして古代日本と加耶の交流史に目を向ける必要がある。

2つめは、今回の展示が、日韓の博物館の信頼関係に基づいて実現に至ったことである。この展示は2年前に開催する予定だった。しかし直前になってコロナ禍のため延期を余儀なくされた。日本で展示するために中央博に集められていた展示品は、韓国各地の博物館に返却されてしまった。もう一度集めることは不可能だと中止も覚悟した。

けれども、日本に暮らす方々に、倭とつながりの深い加耶の歴史を知ってもらいたい、という強い思いを中央博、歴博、そしてもうひとつの共催機関である九州国立博物館の間で共有できた。特に中央博は、韓国各地の博物館と再度の借用交渉、展示品の日本への運搬を一手に引き受けてくれた。

現在の日本と韓国の政治的な関係は、戦後最悪とも言われる。でも、若い世代を中心に(中高年世代も負けず劣らず)、K-POP、ドラマや映画、ファッション、コスメ、そしてグルメなどの「韓流」は、すっかり定着している。私が韓国に留学していた20年前には想像もできなかったほどに、経済、文化、学術についての日韓交流は広がりと深みをみせている。

今回の加耶の展示は、学術的交流のひとつの結実と自負する。そして、展示をご覧になる方々が、加耶の歴史とともに、開催に至るまでの関係者の熱意と努力と交流を、少しでも感じてくれれば……とひそかに願っている。

今年の秋は、千葉県佐倉市にある歴博へ、ぜひお越しください。

金銅製の冠〔大韓民国指定宝物〕
高霊池山洞32号墳　5世紀中頃
(大韓民国国立中央博物館写真提供)

略歴
1975年福島県生まれ、千葉県出身。岡山大学文学部史学科卒業、同大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了。大韓民国慶北大学校考古人類学科博士課程修了。文学博士。著書に『古墳時代の日朝関係―新羅・百済・大加耶と倭の交渉史―』(吉川弘文館、2014年)、『海の向こうから見た倭国』(講談社現代新書、2017年)、『異形」の古墳―朝鮮半島の前方後円墳』(角川選書、2019年)、『アクセサリーの考古学―倭と古代朝鮮の交渉史』(吉川弘文館、2021年)がある。

Essay 時の調べ

展示概要

国際企画展示
「加耶―古代東アジアを生きた、ある王国の歴史―」
会　　場：国立歴史民俗博物館　企画展示室A
会　　期：2022年10月4日(火)～12月11日(日)
休 館 日：月曜日(月曜日が休日の場合は開館し、翌日休館)
開館時間：9時30分～16時30分(入館は16時まで)
料　　金：一般1000円／大学生500円／高校生以下無料
お問い合わせ：050-5541-8600(ハローダイヤル)